



門川町立草川小学校 校長室便り

令和6年度 第8号
令和7年1月14日

AIについて考える

改めまして、保護者の皆様、地域の皆様、令和7年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、新年になってのニュース番組を見ていたら、ある大企業の社長さんが、「2024年はAIがものすごく進化しました。今降、AIを導入しない企業は取り残されていきます。」と話されていました。

AIが私たちの想像を超えて進化した社会の中で、中心となり活躍し、地域をつくっていくのは、今の子どもたちです。

ご存知のとおり、学校では、「プログラミング教育」という、私たちが経験したことのない学習が始まっています。高校においては、情報科という教科ができ、かなり高度なコンピュータについての学習が行われています。また、数年後は、小学校においてもAIについての学習をしたり、AIを学校で活用したりすることが求められると予想されます。

ここで、AIについて確認しますと、文部科学省は次のように述べています。

AIとは人工知能（ちのう）（Artificial Intelligence（アーティフィシャル インテリジェンス））の略称（りやくしょう）。コンピュータの性能が大きく向上したことにより、機械であるコンピュータが「学ぶ」ことができるようになりました。それが現在（げんざい）のAIの中心技術（ぎじゅつ）、機械学習です。

機械学習をはじめとしたAI技術により、翻訳（ほんやく）や自動運転、医療画像診断（いりょうがぞうしんだん）や囲碁（いご）といった人間の知的活動に、AIが大きな役割（やくわり）を果たしつつあります。

文部科学省では、AIが私たちの生活にもっと使われて便利になるように、理化学研究所のセンターなどでAIの基本（きほん）となる数学やアルゴリズムの研究を進めています。

子どもたちにAIのことを指導するには、まずは、校長として、先生方に、どうAIを活用し、触れてもらうか、考えなくてはなりません。今のところ、例えば、時間割作成や文書作成、会議記録の作成等をAIにさせるような環境を整えることが一つの方法かなと思っています。

とにかく、数年後の社会が全く予想できない世の中です。子どもたちの将来のために、学校にどうやってAIを取り入れていくか、これからも悩み続けていきます。

心温まる「こころのメッセージ」

1月7日付けの夕刊デイリーに、「大切な人へ伝えたい こころのメッセージ100編」という記事が出ていました。見られた方も多いと思いますが、私が感動した作品を少し紹介します。いずれも詠み人知らずです。また、原文を漢字に変換して読みやすくしています。

【パパへ】お仕事がんばってくれてありがとう
でもお庭の楽しいやつ作るっていったじゃん
【お母さんへ】失敗しても「お母さんは失敗する子が大好きだよ」と励ましてくれてありがとう 私も大好きだよ
【地域の人へ】暗かった僕に「大丈夫」と言う
てくれてありがとう 今でも覚えています
【先生へ】大嫌いな学校に逃げ道を作ってく
てありがとう 口に出せなくてごめんなさい
いつかありがとうを言いたい

【連載】小学校の先生「あるある」

- 卒業アルバム用の職員写真を撮影する日は服装に結構気を遣う。しかし、撮影を忘れていた時には、当日の朝、服を家に取りに帰ることになり、ちょっとへこむ。
- 3学期になると、学年の残りの日々を充実させたいという思いから、卒業まで、修了までの日数を子どもたちと一緒にカウントし始める。